

広島県・今治市国家戦略特別区域会議（第1回）終了後記者会見

日 時：平成28年3月30日（水）17:50～18:10

場 所：広島県庁北館2階第1会議室

（福岡副大臣冒頭発言）

石破大臣のもとで国家戦略特区担当副大臣をしております福岡資麿と申します。宜しく申し上げます。

さきほど、第1回広島県・今治市国家戦略特別区域会議が終了いたしました。今回につきましては、外国人創業人材の特例事業、国家公務員の退職手当に係る特例事業2事業、特定実験試験局制度の特例事業2事業、雇用労働相談センター、人材流動化支援センターを中心に議論させていただいたところであります。

これらにつきましては、議論が本日整いましたことから、区域会議として決定させていただき、速やかに内閣総理大臣による認定に向けて手続きを進めてまいりたいと考えております。

広島県及び今治市発の取組が更に具体的に進展し、全国の地方創生のモデルとなることを期待するとともに、国としても具体的事業の「見える化」を強力に、一緒になって推進してまいりたいと考えている次第であります。

私からは以上です。

（湯崎広島県知事冒頭発言）

ただいま福岡副大臣からもありましたとおり、第一回の区域会議が終了したところでありますが、広島県からは、今治市と連携して行いますドローンを活用した物資輸送、また、インフラ点検などの実証実験を提案するとともに、創業後間もない企業に対して雇用ルールの整備の支援などを行います「雇用労働相談センター」の設置、スタートアップ企業の人材獲得を支援する「スタートアップ人材マッチング支援センター」事業の開始、また、創業を希望される外国人の方への在留資格要件の緩和など、スタートアップ企業を強力に応援する事業を、お願いしたところでございます。

広島県としては、今後、この特区におきまして、ビッグデータの利活用、国内外を問わない高度な人材の集積及び育成、創業しやすい環境の整備、この3つが一体的に進むよう、取り組んでいくことで、イノベーションが次々と起こるような環境を実現し、県の政策にも掲げておりますイノベーション創出の実現に向けて取組を強化してまいりたいと考えております。

（菅今治市長冒頭発言）

私ども、広島県、特に尾道市と今治市にある「しまなみ海道」、これをなんとしてもも

っともっと活かしたいと思っております。2年前に、愛媛県、広島県の両県で「瀬戸内しまのわ2014」という島を中心とした大きなイベントを行いました。当然、「しまなみ海道」が非常に脚光を浴びたわけで、こういったことを通じて、観光客が今、サイクリストを中心に増えておりますが、もっともっと魅力ある広島県に、沢山お越しになる外国人の皆様方が、しまなみにも目を向けて欲しい。そういった意味でも今回の国家戦略特区に広島県も指定され、一緒に取り組めるということが非常に重要な意味があると思っております。

二つ目は、これも共通していてドローンの活用でございます。非常に広島企業さんががんばっておられる。こういった中で、私ども、大きな有人島があります。こういったところの過疎、そして高齢化に対する支援がドローンの活用によって、できるのではないかと、そういった取組みをしっかりとやっていきたい。

また、それぞれのしまなみ海道には、今治市の道の駅がございます。この道の駅をどう活かすか。これは非常に大きな意味合いがありますから、民間の知恵、民間からの参入をいただきながら、さらに大きく充実したものになっていくように努力してまいりたい。それが今回の特区指定をいただいたひとつの要素になれば、非常におもしろい取組みかと思っております。

もう一点は、先ほど分科会のご決定をいただきましたが、長い年月、獣医大学新設の取組みをさせていただいております。今回、特区指定により、この方向に大きな光が差し込むようにさらに中身を検討していきたいと思っておりますけれども、皆様方からのご協力をいただきながら、前に進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(質疑応答)

(問) 中国新聞です。ドローンの物資輸送について、もう少し具体的に、誰が、どういうふうな、こういった方を対象にして、いつ頃を目途にしているのかを伺いたい。

(湯崎知事) 実証実験を行うに当たって、実験を行う者が免許を取らなければならないが、通常だと1～2週間かかるところを即日交付するという事で、迅速に柔軟に実験をすることができるといことです。具体的には、生活物資など様々な物資郵送、その他インフラ点検あるいは山林の植生状況が分かたりですとか、また山林があると土壌の状況が把握しにくいのですが、ドローンとレーダーを使って植生を透視したような形で観測することができ、砂防を含めた活用ができると考えております。それを今後具体的にビジネス化するに当たって、実証実験を円滑に行えるようにするという内容でございます。

(菅市長) 今の広島県湯崎知事のお話のとおりですが、これからの大きな課題もあらうかと思いますが、既に広島の土砂災害で活躍したということ、総理官邸でも実証されたということで、身近なものになってきた。そうしますと、先ほど申し上げたとおり、私も高齢者、買い物難民、こういった方々に様々な宅配サービスをする、提供できる体制を正面から研究してまいりたい。それからもう一つは、公共の保守点検ですね。ダムとか、橋とかいろいろなものが老朽化しておりますので、そういったものにも点検することができると考え、活用してまいりたいと考えております。

(問) 具体的に実証実験は例えばいつごろからやられるとか、実験の目途というか、スケジュール感みたいなところを。

(湯崎知事) これは、既に橋梁の点検などのインフラ点検、あるいは先ほど申し上げたような地形測定とか、土砂災害のときもですね、出していただいたりしたのですが、そういう中で活用がすぐにでも想定されます。具体的にいつからというのは、今、明確に申し上げられませんが、足元でも既にそういったことは進んでいますので、これは即座というか、いつでもあり得る、ということです。

(問) 愛媛新聞社の山岡です。菅市長に、獣医学部の新設についてなんですけれども、冒頭でも期待感をお言葉にされていたかと思うのですが、改めての期待感と、今後のスケジュール感、事業者の公募もしなければいけないと思いますけれども、最終的にどういう大学を目指していきたいかというところをお聞きできれば。

(菅市長) どの地方都市も抱えている問題、若者の人口減、要は若者を、どうこの地域に呼び込むかということで。愛媛県では松山市という目の前にある地域で、学生を中心ににぎわっております。あれをじっと横目で見ながら、「なぜか、なぜだろう」と。それはやはり大学生が非常に長いこと、松山大学をはじめ、たくさん学生さんがおられるということ。そういった中で、わが今治市も、大学の誘致というものは、まさに40年来の悲願でもございました。そういったことから、獣医系の大学というものが、特区申請をいろいろしてまいりましたが、なかなか、50年間、北里大学以来、新設がありません。とりわけ四国にはない。こういったことから、何としてもという願いを持っておりましてけれども、今回の特区の指定によりまして、その方向付けが出来るとしたら、大変地域にとって、今治市にとって、ありがたい、また、一つの展望、希望の灯といったものを強く感じておりますから、その実現に向けて、全力を尽くしてまいりたい、そのようにも思っております。

(問) 日経新聞の後藤です。先ほどドローンの話が色々ありましたが、島嶼部というところなんですが、具体的な地名、想定があれば教えていただきたい。あと、実証なのである程度期間を決めて、何か年とか、もっとピンポイントで何週間とか、何日とか具体的なところがあれば教えていただきたい。もう一点、物資の話とインフラの点検の話もありましたが、インフラの点検についてもどこでやるのかわかれば教えていただきたい。

(湯崎知事) 今、具体的に実証計画のようなものを作って、ここでやりますということをやっているわけではなくて、これから作成をしていくということになります。ですので、今、具体的な地域、時期を申し上げることは難しいと思いますけども、例えば、インフラの点検なんかですと、広島県でもこういった新しいテクノロジーを活用したインフラ点検のための技術を募集しておりまして、その中にドローンも入っていて、ルーチェさんも入っているのですが、その中で活動していきたいと思っております。

(問) テレビ新広島の若木です。よろしくお願いします。外国人の創業活動の促進については何か具体的な方法であったり、何かあれば教えていただければ。

(湯崎知事) はい。こちらですね、足元で創業したいという方が並んでいる状況ではないので、ご承知のように広島県では、創業支援ないしは創業のイノベーションエコシステムの構築を一つの大きなテーマとして取り組んでいること、それから高度人材を集積していくということをテーマで進めているというのはご承知のとおりですので、今東京ではかなり外国人の方が入ってビジネスを進めていらっしゃるということが起きておりまして、我々としては広島、今治も含まれるんですが、生活環境が非常によいところでそういう創業をしてほしいと。今の創業というのは、まさに場所を選ばないと。創業というよりビジネスですよ。場所を選ばずにできるということが増えているということ、やはりですね、むしろ生活環境のいいところをアピールして、地域で創業してほしいと。それはまた様々な形で、今の緩和ということだけではなく、先ほどの支援ネットワークだとかを含めて全面的に支援していくということでアピールしていきたいなと思っています。

それからもう一つ、観光系の外国人の方が、日本の日本人が気付かないようなサービスであるとか、おもてなしをお考えになっているようなことをちらほら聞いていますので、そういったようなことをこちらできればと思っています。

(以上)